

ドイツ語 (初級B) / A ドイツ語 第22回 nicht の位置、受動

範囲: 教科書第13課コラム、第14課A (S. 54-56)

《今回の基本例文》

73. Das Geschäft wird um acht Uhr geöffnet. (CD68-1)
そのお店は8時に開かれる。
[受動、時刻を表す um]
74. Wir werden von unserem Freund eingeladen. (CD68-4)
私たちは友人に招待されている。
[受動、行為の主体を表す von、(過去分詞 (分離動詞))]
75. Der Garten muss immer sauber gehalten werden. (CD69-1)
庭は常に清潔に保たれていなければならない。
[受動 (話法の助動詞)]
76. Die Stadt wurde durch den Krieg zerstört. (CD68-2)
その都市は戦争で破壊された。
[受動 (過去形)、行為の媒体・手段を表す durch]
77. Der Verletzte ist gleich ins Krankenhaus gebracht worden. (CD67-4)
その負傷者の男はすぐ病院に運ばれた。
[受動 (現在完了)、(現在完了 (sein 支配))、(形容詞の名詞化)]
78. In Japan wird links gefahren. (CD70-1)
日本では車両は左側通行である。
[自動詞の受動]
79. Die Hotelzimmer sind schon reserviert. (CD71-3)
ホテルの部屋はもう予約が埋まっている。
[状態受動]

I nicht の位置

コラム nicht の位置 (S. 54)

◇ **nicht** の位置については、やや複雑な規則がある。**nicht** と **kein** の使い分けを扱ったときにやや触れた (教科書 S. 28) が、ここでもう少し詳しく解説する。ただし、どちらかといえば中上級者向けの文法事項であり、ざっと目を通してもらえればよく、より本格的な説明は本資料 S. 7-8 の **参考** にゆずる。

◇ **部分否定** の場合、**nicht** は否定したい語句の一つ前に置く (教科書の 2)。

Er fährt nicht heute mit dem Zug nach Zürich.

彼が列車でチューリヒに行くのは、今日ではない。

* **nicht** を **heute** の一つ前に置き、**heute** だけを否定している。ほかの副詞句や主語に対しても、同じことができる。

◇ 全否定の場合、基本的には文末に置く (1のa)を参照)。

Er kauft das Buch nicht.

彼はその本を買わない。

◇ ただし、全否定であるにもかかわらず nicht を文末に置かない場合もあり、それは以下の通り。

- ・文末に動詞要素(話法の助動詞を含む文における不定詞、現在完了における過去分詞、受動における過去分詞)がある場合 → nicht は不定詞や過去分詞の一つ前 (1のb))。

Er kann heute nicht kommen. (話法の助動詞の場合)

彼は今日は来られない。

Er ist heute nicht gekommen. (現在完了の場合)

彼は今日は来なかった。

- ・文末に分離動詞の前綴りがある場合 → nicht は前綴りの一つ前 (1のb))。

Er kommt heute nicht mit.

彼は今日は一緒に来ない。

- ・文末に述語内容語がある場合 → nicht は述語内容語の一つ前 (1のc))。

Ich bin nicht krank.

私は病気ではない。

- ・文末に位置や移動の目的地を示す前置詞句がある場合 → nicht は前置詞句の一つ前 (1のc))。

Er wohnt nicht in München. (位置の場合)

彼はミュンヘンには住んでいない。

Er fährt heute nicht nach Berlin. (移動の目的地の場合)

彼は今日、ベルリンに行かない。

- ・文末に動詞と熟語的に結びついた前置詞句がある場合 → nicht は前置詞句の一つ前 (1のc))。

* 教科書 S. 24 の⑤や S. 53 の③で学んだ熟語などのこと。

Sie interessierte sich nicht für moderne Kunst.

彼女は現代美術には関心がなかった。

* 教科書 S. 53 で学んだ再帰動詞の熟語、*sich für et⁴. interessieren* を使用している。

- ・文末に自立性のない目的語がある場合 → nicht は目的語の一つ前 (教科書 S. 28)。

* 「自立性のない目的語」とは、教科書 S. 28 の *Bescheid wissen* (事情がわかっている) のような、目的語+動詞で構成された熟語的表現における目的語のこと。

Ich weiß nicht Bescheid.

私には事情がわからない。

◇ 相関的接続表現 nicht A, sondern B は「A ではなく B」の意味 (英語の *not A but B* に相当)。

Er fährt heute nicht mit dem Zug, sondern mit dem Auto nach Zürich.

彼は今日、列車ではなく自動車ですてりヒに行く。

II 受動

A. 受動 (S. 55)

1 受動の現在人称変化 2 受動の時称

werden → 第2位（定動詞の位置）
過去分詞 → 文末

◇ ドイツ語の**受動態**（動作受動）は、**werden＋過去分詞**によってつくられる。意味は「～される」。

* 英語の受動態が *be*＋過去分詞なのと異なる。なお、ドイツ語でも *sein*＋過去分詞というかたちは存在するが、その場合は状態受動と呼ばれる特殊なかたち（「～されてある」）となる。（⇒教科書 S. 57）

◇ **受動の現在形**は、**werden** を定動詞第2位の位置に置き、**過去分詞**を文末に置く語順となる。図式化すれば、

| 第1位 | 第2位 | 第3位以下 | 文末 |
|-----|-----------------|-------|------|
| … | werden の現在人称変化形 | … | 過去分詞 |

* もちろん、定動詞以外の動詞要素を文末に置くのは、語法の助動詞を用いた文や未来形の文における不定詞、現在完了における過去分詞でおなじみの語順である。

Der Supermarkt wird um 8 Uhr geöffnet.

そのスーパーマーケットは8時に開けられる（開店する）。

* もちろん、*geöffnet* は *öffnen* の過去分詞。

受動の過去形は、この **werden** を過去人称変化形（*wurde* など）に変えればよい。図式化すれば、

| 第1位 | 第2位 | 第3位以下 | 文末 |
|-----|------------------|-------|------|
| … | wurde の（過去）人称変化形 | … | 過去分詞 |

上の例文を過去形にすれば、

Der Supermarkt wurde um 8 Uhr geöffnet.

そのスーパーマーケットは8時に開けられた（開店した）。

◇ **受動の現在完了**は、**sein** を定動詞第2位の位置に置き、「**過去分詞 worden**」を文末に置く。図式化すれば、

| 第1位 | 第2位 | 第3位以下 | 文末 |
|-----|---------------|-------|-------------|
| … | sein の現在人称変化形 | … | 過去分詞 worden |

・ **worden** は **werden** の過去分詞。 **werden** の2つの過去分詞（*geworden* と *worden*）の使い分けについては、授業第18回「不規則変化動詞のまとめ」S. 1も参照。

・ 定動詞が *sein* なのは、**werden** が *sein* 支配であるため。（⇒教科書 S. 49）

Der Supermarkt ist um 8 Uhr geöffnet worden.

そのスーパーマーケットは8時に開けられた（開店した）。

* 受動の現在完了は、動詞要素が3つになってしまう複雑な文であるが、日常生活でも比較的良好に使用されるため、覚えておいた方がよい。一方、受動の過去完了や受動の未来は、現段階では特に覚えなくてよい。

3 能動文と受動文の対応

受動文の動作主体 → ほぼ **von** で表す (英語の *by*)

◇ 能動文と受動文の対応の公式は以下の通り。

| 能動 | → | 受動 | 備考 |
|----|---|-----------------|-----------------------------|
| 1格 | → | von+3格/durch+4格 | 省略可、主語が <i>man</i> のときは必ず省略 |
| 2格 | → | 2格 | そのまま |
| 3格 | → | 3格 | そのまま |
| 4格 | → | 1格 | |

・能動文「AはBを何々する」を受動文「BはAに何々される」に直すわけなので、能動文の4格目的語はもちろん受動文では主語(1格)となる。

・基本的には、受動文における動作主体(英語の *by...*)は **von+3格**で表す。動作主体が媒体、手段の場合は *durch*+4格で表すことになっているが、現代語ではあまり区別されない(*von*+3格が基本)。

・能動文の2格や3格は受動文でもそのまま引き継がれる。

(能動) Die Polizei verhaftete den Dieb sofort.

警察は泥棒をただちに逮捕した。

(受動) Der Dieb wurde von der Polizei sofort verhaftet.

泥棒は警察にただちに逮捕された。

* 能動文の4格目的語 *den Dieb* が受動文では1格の主語 *der Dieb* に、能動文の1格の主語 *die Polizei* が受動文では *von*+3格の *von der Polizei* になっていることを確認せよ。

◇ 能動文を受動文に変換するとき、受動文の主語になれるのは元の文の4格目的語だけである。英語の場合、第4文型(SVOO)の間接目的語、直接目的語ともに受動文の主語になりうる。しかし、ドイツ語では、3格目的語は受動文の主語になれない。

(能動) *He gave her a flower.*

彼は彼女に花をあげた。

(受動) ○ *She was given a flower (by him).*

彼女は(彼に)花をもらった。

(受動) ○ *A flower was given (to) her (by him).*

花が(彼によって)彼女に与えられた。

* 英語では、「彼女は花をもらった」も「花が彼女に与えられた」もつくりことができる。

(能動) *Er gab ihr eine Blume.*

彼は彼女に花をあげた。

(受動) × ~~*Sie wurde eine Blume gegeben.*~~

* 一方、ドイツ語では能動文の3格目的語は受動文の主語にできないので、「彼女は花をもらった」式の文はつくりえない。

(受動) ○ *Eine Blume wurde ihr (von ihm) gegeben.*

花が(彼によって)彼女に与えられた。

* このような「花が彼女に与えられた」式の文なら可能。

◇ 能動文の主語が漠然とした人を表す **man** のとき、受動文では **von** や **durch** で動作主体を表すことができない。その場合、受動文では動作主体は削除してよい。

* **man** には1格しかなく、3格や4格にはできず、***von man** というかたちはあり得ないので注意。

(能動) **Auch in Österreich spricht man Deutsch.**

オーストリアでも人々はドイツ語を話している。

(受動) **Auch in Österreich wird Deutsch gesprochen.**

オーストリアでもドイツ語が話されている。

4 話法の助動詞を含む受動文 (S. 56)

◇ 話法の助動詞を含む受動文 (現在形) を図式化すれば、

| 第1位 | 第2位 | 第3位以下 | 文末 |
|-----|----------------|-------|--------------------|
| … | 話法の助動詞の現在人称変化形 | … | 過去分詞 werden |

話法の助動詞を過去人称変化形 (**musste**、**konnte** など) にすれば、過去形になる。

* 話法の助動詞を含む受動文も、受動の現在完了と同じく、動詞要素が3つになってしまう複雑な文であるが、日常生活でも比較的よく使用される。

Der Kranke muss operiert werden.

その患者は手術されなければならない。

Der Kranke musste operiert werden.

その患者は手術されなければならなかった。

* **der Kranke** は形容詞名詞化。 (⇒教科書 S. 41)

5 自動詞の受動

◇ 受動は「Aを何々する」という能動を「Aは何々される」に書き換えたものが普通であり、よって基本は他動詞の受動である。ただし、場合によっては自動詞の受動もつくりすることができる。

* 英語の場合、自動詞+前置詞で意味上は他動詞となる熟語で自動詞の受動が現れる。例えば、**laugh** (笑う) は自動詞で、**laugh at** (～を笑う) としてはじめて他動詞的に使える。これを受動文にすると、次のようになる。

He was laughed at by everybody.

◇ 教科書の説明がわかりにくいので、次のように考えてほしい。

・ 自動詞の受動は、文頭に形式主語 **es** を置き、**werden** を3人称単数形 (**wird**) に変化させてつくるのを原則とする。

(能動) **Bei uns arbeitet man auch samstags.**

私たちのところでは人々は土曜日にも働く。

(受動) **Es wird bei uns auch samstags gearbeitet.**

私たちのところでは土曜日にも働く。

* ドイツ語の場合、こうした **man** を主語とした文で自動詞の受動がよく行われる。

** 週休二日制が普及していなかった時代の例文と思われる。

・ただし、形式主語 es が文頭に来ないとき (ほかの文成分が文頭に来的时候)、この es は必ず省略されることになり、主語のない文ができあがる。

* 文頭に来ない形式主語 es は、いつでも省略するわけではない。ほか省略可能な場合については、教科書 S.58 を参照。

(受動) Bei uns wird es auch samstags gearbeitet.

私たちのところでは土曜日も働く。

(受動) Auch samstags wird es bei uns gearbeitet.

私たちのところでは土曜日も働く。

* それぞれ bei uns、auch samstags を文頭に出した場合。

・一方、文頭に出せる要素がないときは、先の原則通りの、形式主語 es を使う文をつくるしかない。

(能動) Man plauderte und lachte.

人々はおしゃべりしたり笑ったりした。

(受動) Es wurde geplaudert und gelacht.

おしゃべりしたり笑ったりした。

* なお、この文にほかの要素、例えば副詞 gestern が入っていれば、それを文頭に出して es を省略した文をつくれる

(受動) Gestern wurde geplaudert und gelacht.

昨日はおしゃべりしたり笑ったりした。

◇ 英語と同じく、自動詞+前置詞の熟語でも自動詞の受動が現れる。

(能動) Man diskutiert oft über dieses Buch.

人々はこの本についてよく議論する。

(受動) Über dieses Buch wird oft diskutiert.

Es wird über dieses Buch oft diskutiert.

この本については、しばしば議論される。

(英語) *This Book is often talked about.*

* なお、ドイツ語の diskutieren と異なり、英語の discuss は他動詞である。

6 状態受動 (S.57)

◇ **状態受動 (～されてある)** は、**sein+過去分詞** によってつくられる。語順は動作受動と同じ。

| 第1位 | 第2位 | 第3位以下 | 文末 |
|-----|---------------|-------|------|
| … | sein の現在人称変化形 | … | 過去分詞 |

* 英語の動作受動=be+過去分詞との混同に注意。ドイツ語の場合、動作受動はあくまでも werden+過去分詞である。

** sein 支配の動詞の現在完了も sein+過去分詞だが、状態受動に用いられる動詞は必ず他動詞、sein 支配の動詞は必ず自動詞であるため、区別は可能。

(状態受動) Das Museum ist montags geschlossen.

博物館は、月曜日には閉まっている。

(動作受動) Das Museum wird um 21 Uhr geschlossen.

博物館は 21 時には閉められる。

参考 nicht の位置の考え方

◇ nicht の位置については、部分否定の場合は比較的簡単に説明できる (否定したい要素の一つ前) のに対して、全否定では文末に置かれるときと文末には置かれないうきの 2 パターンがあり、かなりわかりにくかったと思う。ここでは、そのあたりを納得できなかった人のため、もう少し筋道立てた解説を行う。もちろん、いまの段階では完全に理解する必要はないので、ここを読むのはあくまでも努力目標としておく。

◇ nicht の位置を理解するコツは、不定詞句から考えることである。不定詞句については授業第3回で触れたが (配付資料 S. 1-2)、復習すると、不定詞句とは主語を含まない文の構成要素であり、日本語とほぼ同じ語順 (副詞 (句) - 目的語 / 述語内容語 - 動詞 (不定詞)) をとる。

◇ まず、「その本を買う」の不定詞句と、その否定「その本を買わない」の不定詞句を考えてみよう。このとき、部分否定の場合と同じく、nicht は否定したい要素の一つ前に入れる (この場合は動詞の)。

das Buch kaufen

その本を買う

das Buch **nicht** kaufen

その本を買わない

次に、主語 er を加えて、「その本を買わない」の方の不定詞句を文にしてみる。最後の不定詞句を定動詞第2位の位置に持ってきて人称変化させるので、

das Buch **nicht** kaufen

← ← ← ←

Er kauft das Buch **nicht**.

彼はその本を買わない。

となって、nicht が文末に来る文ができるわけである。

◇ 同じ作業を、話法の助動詞や現在完了の不定詞についてやってみよう。なお、完了不定詞は「過去分詞 haben / sein」である (教科書 S. 50)。

heute kommen können

今日は来られない

heute gekommen sein

今日は来なかった

さて、これらを否定するときも、nicht は原則的には否定したい要素の一つ前に入れるのだが、kommen können (不定詞+話法の助動詞) や gekommen sein (過去分詞+haben / sein) は分かちがたく結びついていて切り離せないため、nicht を割って入れることはできず、その一つ前に入れるしかない。そうしてつくった不定詞句に主語を加えて文にしたのが、nicht が文末に来ない次の文である。

heute **nicht** kommen können

← ← ← ← ← ←

Er kann heute **nicht** kommen.

彼は今日は来られない。

heute nicht gekommen sein

← ← ← ← ← ←

Er ist heute nicht gekommen.

彼は今日は来なかった。

◇ 不定詞句において、分ちがたく結びついている2要素のあいだに **nicht** が割って入れないのは、上記「不定詞+語法の助動詞」や「過去分詞+haben / sein」のほか、

- ・分離動詞の前綴り+基礎動詞
- ・述語内容語+sein
- ・位置や移動の目的地を表す前置詞句+動詞
- ・熟語における前置詞句+動詞
- ・熟語における自立性のない目的語+動詞

にも該当する。よって、これらの不定詞句から文をつくるとき、**nicht** は文末には来なくなる。

heute nicht mitkommen (分離動詞の前綴り+基礎動詞)

← ← ←

Er kommt heute nicht mit.

彼は今日は一緒に来ない。

nicht krank sein (述語内容語+sein)

← ← ←

Ich bin nicht krank

私は病気ではない。

nicht in München wohnen (位置や移動の目的地を表す前置詞句+動詞)

← ← ← ← ←

Er wohnt nicht in München

彼はミュンヘンには住んでいない。

sich nicht für moderne Kunst interessieren (熟語における前置詞句+動詞)

← ← ← ← ← ← ← ←

Sie interessierte sich nicht für moderne Kunst.

彼女は現代美術には関心がなかった。

nicht Bescheid wissen (熟語における自立性のない目的語+動詞)

← ← ← ←

Ich weiß nicht Bescheid.

私には事情がわからない。

このように不定詞句から考えれば、**nicht** の位置の複雑な規則を理屈で理解することができるのである。

連絡先など

教員のメールアドレス: tokan@nifty.com 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>